

第2回住民ワークショップ ワークまとめ

令和6年9月17日

坂井市 市民協働課

ワーク（坂井市の自治会の課題）

①ミステリーからわかったこと

- ・忙しい子育て世代を活動に参加させたい。
- ・区の活動に女性の関わりがないため、何らかの役割を与えた方が良い？

②2地区の紹介からわかったこと

- ・役員が固定化していて、一部の人に負担が偏っている⇒30～40歳代の活躍の場が必要。区長以外のリーダーが必要。
- ・不満、要望の優先度を考える(課題の洗い出し)
- ・自治会内では声大きい人の意見が目立ってしまう傾向にあるが、平等な目で地域全体を見る必要がある。例えば、ある班が不満を持っている場合は、他の声の小さい班も同じ悩みを持っていないか考える。
- ・30年後に必要なかどうかを考えて予算を使う(集会施設の新設等)
- ・組織をなくすことよりもどう続けていくか、違う組織にできないか検討する。

③ふだんの活動からわかること

- ・子どもとその親を巻き込んだ地域参加への工夫が必要
- ・事業を見直して、不要な行事(役員だけの飲み会等)をなくして区費を減額した。

- ・広報紙を続けて発行しているが、マンネリ化しないようにしている。
- ・若い層との考え方に違いがある。若者でやれとなるが、時間に余裕がない。
- ・各家庭でも世代交代ができていない。

④一般論からわかること

- ・少子高齢化で区長の選出が困難
- ・若者との交流の場が少なくなっている。
- ・負担が大きく面倒で区の行事を辞めてしまう。

【最も盛り上がった話題】

- ・役員だけでなく、若者や女性が積極的に参加できるような活動が望ましい。
- ・意欲があり活動的な区長はいるが、それを継承する若者・リーダーが必要。

【何が見えてきたか】

- ・自治会の課題解決のためには、地域への愛、チームワークが必要であると感じた。そのために世代間のコミュニケーション、交流の場を作ることが出来れば、次世代の育成にもつながり、役員の負担も軽減するのではないか。

ワーク（坂井市の自治会の課題）^{（業）} 業務効率化 ②

<p>① ミステリーからわかったこと</p> <p>高齢者支援が 市のノウハウ 伝授</p> <p>雪かき</p> <p>市業務 効率化</p>	<p>③ ふだんの活動からわかること (悩みだけでなく、努力していること、成功していること等)</p> <p>市への要望 区長業務の負担軽減 - 税金 - 基金</p> <p>配布文書の削減 - 本マスター減</p> <p>実践を促した訓練</p>
<p>② 2地区の紹介からわかったこと</p> <p>小さな集落</p> <p>大きな集落</p>	<p>④ 一般論からわかること</p>

① ミステリーからわかったこと

- ・高齢者宅の雪かき等高齢者に対する生活支援について二の足を踏んでいる。
- ・ミステリーで個々の問題のつながりを理解できたので、できるところから始めることで突破口としたい。

② 2地区の紹介からわかったこと

小さな集落と大きな集落とは課題と取り組みに違いがある。

[小さな集落]

- ・数人で区長を廻さざるを得ないが、区を継続したいとの想いは強い。
- ・集落だけではもはや限界 区外転出者に協力を求めるなど新たな手法が必要。

[大きな集落]

- ・将来の担い手不足は重大な問題をまねくので、早いうちに女性や若者を含めた組織改革が必要。

③ ふだんの活動からわかること

- ・市への要望 区長業務の負担軽減を！！役の枠の軽減、募金振り込み時の納付書等 配布文書の削減、減量化
- ・効率的な運営には IT を活用する。自治会サポ等

- ・業務の負担軽減の好例として防災訓練時の「黄色いハンカチ作戦」がある。実践に役立つ手法の共有したい。
- ・課題は世帯主だけでなく、集落住民みんなで共有すること。

④ 一般論からわかること

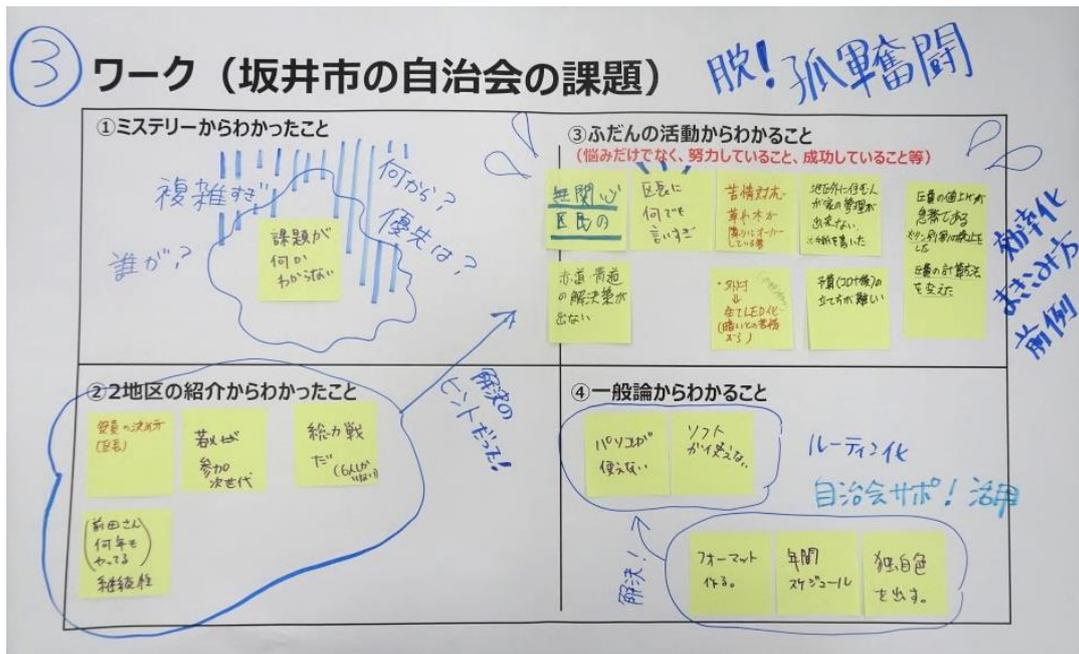
少子高齢化が進む中、希望を見出す活動や取り組み 例)ワークショップの開催等

【最も盛り上がった話題】

○事例発表にあった限界集落でも区長自身が落ち込まずに頑張っていること。

【何が見えてきたか】

○区の業務を効率化し、労務負担の軽減を図る。



①ミステリーからわかったこと

- ・自治会離れや空き家の増加など、自治会をとりまく課題は、さまざまな背景が複雑に絡み合っていることが分かった。
- ・何か一つだけを解決しようとしてもだめで、むしろ、どんな優先で何から手を付けるか、誰が担うのかという話から、ますます歪みが生まれてしまいそう。
- ・もはや、何が課題かということではなく、止めようがない少子高齢化、ライフスタイルの変化、複雑多様化した社会情勢を受け止め、順応していくしかない。

②2地区の紹介からわかったこと

- ・区長は一年任期でも、複数年にわたり役員として区の運営に関わる仕組みにしているのは良いと思った。後進の育成がやすく、担い手の若返りも自然にできそう。
- ・区長になることへの不安をなくすために、区長業務を見える化すると良い。
- ・役員の方針を含め、組織のあり方(見直しも含めてどう続けていくか)の検討が必要。
- ・特定の人に負担が偏らないように、若手(30~40歳代、次世代)の得意分野を活かせる関わり方を増やしていくなどの工夫が必要。
- ・特に小さな区は総力戦でないといけない。

③ふだんの活動からわかること

- ・区長の業務は、例えるなら「孤軍奮闘」だ。区の運営に無関心(=他人事)な区民が多い。
- ・区長になったことを機に、現代の実情にあった区費の計算方法に変えた。
- ・コロナ後の予算編成に苦慮した。

- ・前例踏襲のやり方が合うものもあるが、後世のために勇気をもって改革することも大事。
- ・役員の決め方などについて、2地区の事例がヒントになった。
- ・不満、苦情、要望など、とにかく何でも区長に言いすぎ(言われすぎ)で荷が重い。
- ・都合よく解決への「入口」にされることが多いが、区で解決できること(外灯の設置など行政との橋渡し役)よりも、嫌われ役になること(管理不行き届きな家主への忠告など)も少なくなく、苦情対応ばかりでは区長のなり手が増えるわけではない。
- ・運営の効率化、区民の巻き込み方など、区長単独で解決できるものではなく、いかに区民の関心を高めるかのヒントを、このワークショップで解決法を見い出せると良い。

④一般論からわかること

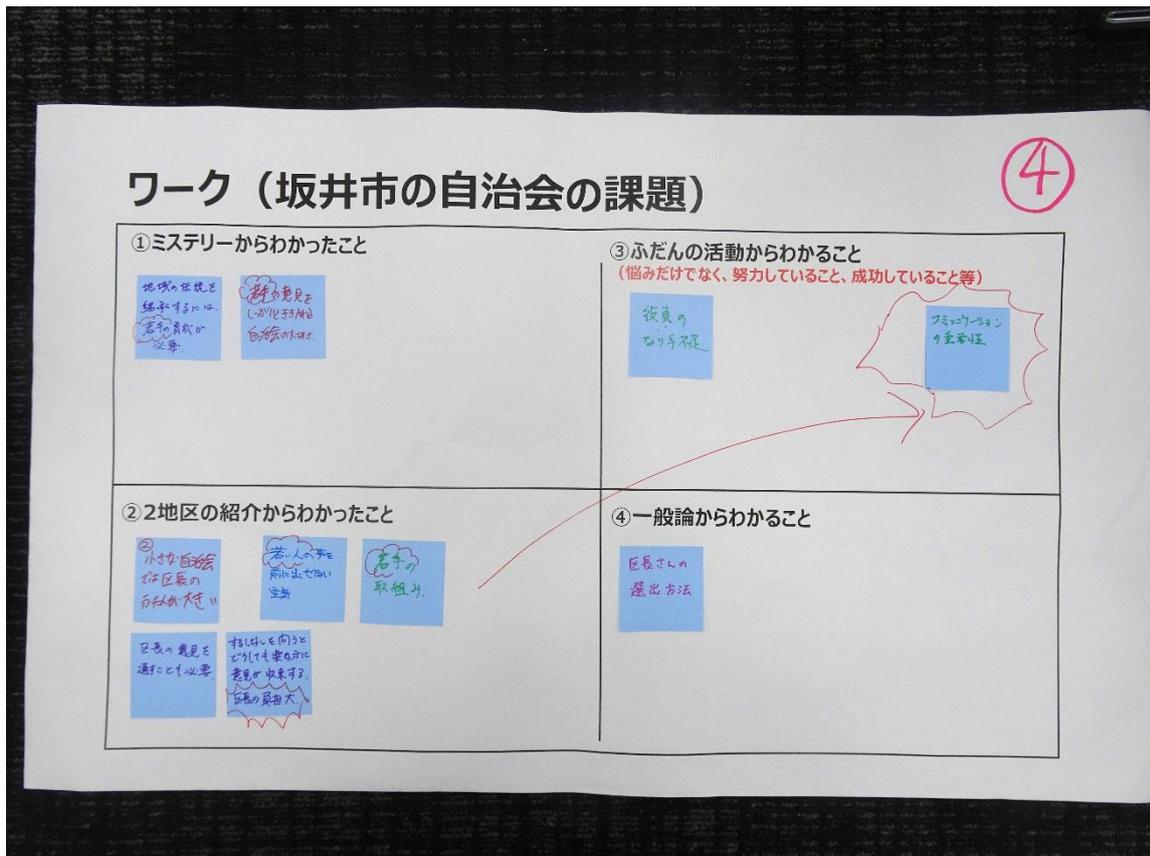
- ・社会全体の潮流もさることながら、そもそも区長になる年代はパソコン操作が不得手な人が多いように思う。普段の業務はもちろん引継ぎをしやすいように、文書や資料のデータ化、フォーマット化、ルーティン化をしておくが良い。
- ・それが得意な若手世代の力を頼りつつ、自然と運営の協力を結び付けられるとよい。
- ・その実現に自治会サポ！が一役買ってくれそう。

【最も盛り上がった話題】

- ・目指せ、脱！孤軍奮闘。

【何が見えてきたか】

- ・住民一人一人に、区の一員であることの自覚や責任をもってもらうことが必要。
- ・押し付けではなく、いろんな世代、いろんな立場の人とのコミュニケーションを図りながら、お互いを尊重し、理解し合える雰囲気をつくるのが大事で、それが自ずと共助や役割分担意識につながっていくのではないか。



①ミステリーからわかったこと

- ・地域の伝統を継承するには若手の育成が必要
- ・若手の意見をしっかりと聞き入れる自治会の大切さ

②2地区の紹介からわかったこと

- ・小さな自治会では区長の負担が大きい
- ・若い人の声を前に出せない空気
- ・若手の取り組み
- ・区長の意見を通すことも必要
- ・する、しないを問うとどうしても楽な方に意見が収束する。区長の負担大

③ふだんの活動からわかること

- ・役員のなり手不足
- ・コミュニケーションの重要性

④一般論からわかること

- ・区長さんの選出方法

【最も盛り上がった話題】

○区長(役員)のなり手不足

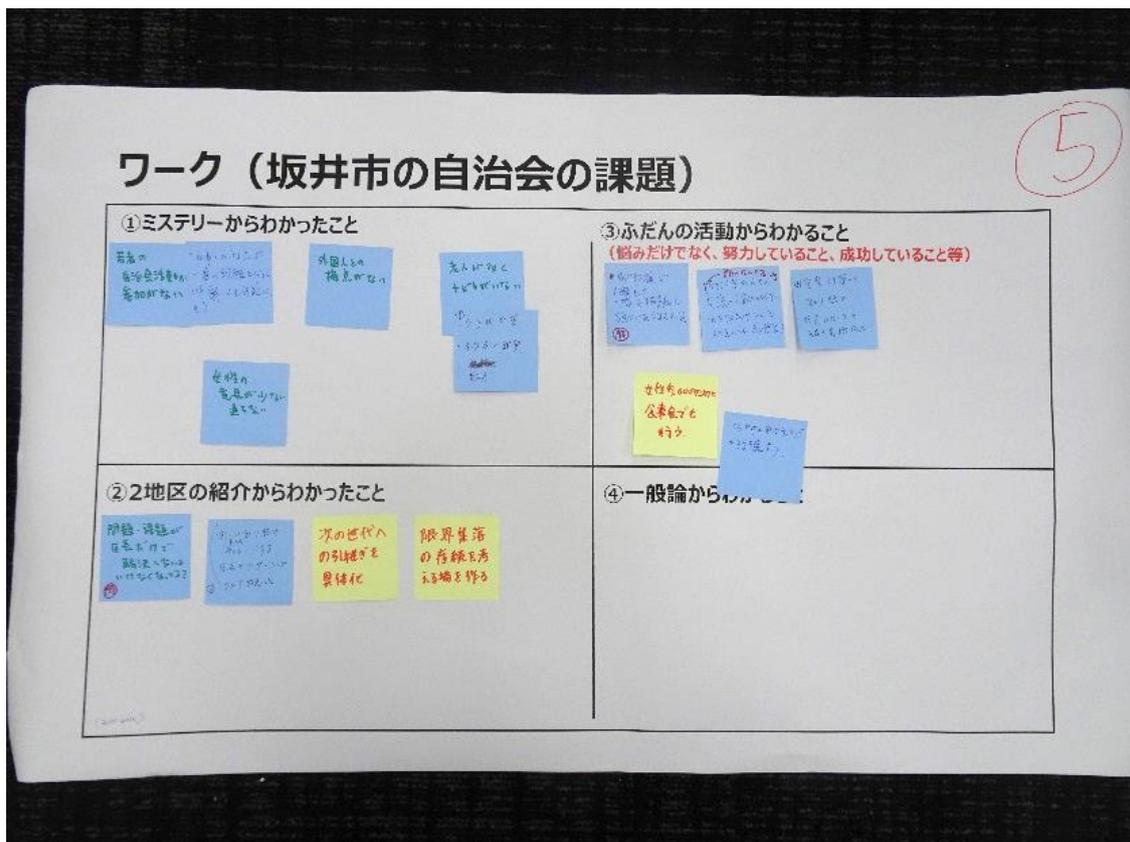
- ・区長の負担が大きく、拘束期間も1年から3年と長いいため誰もなりたがらない。結局区長をやる人は限られてくる
- ・不満が出ない区長選出の方法
 - 班で持ち回りにしている区:班の人数差で区長が回ってくる周期にバラつきがある
 - 役員に定年を設けている区:働いている世代のため、仕事と区長業務の両立が厳しい

○若手育成

- ・地域や伝統を維持していくには若い人の力が必要
- ・若手の意見を役員たち(上の世代)が潰してしまう

【何が見えてきたか】

- ・若手の意見を取り入れた取り組み、取り入れるための取り組みなど、若手を育成・尊重する仕組み・雰囲気づくり
 - コミュニケーションが重要



①ミステリーからわかったこと

- ・若者の自治会参加が少ない
- ・外国人との接点がない。どう接していいのかわからない
- ・老人が多く子どもがいない
- ・女性の意見が少ない
- ・仕事の両立が課題となっている

②2地区の紹介からわかったこと

- ・問題、課題が区長だけで解決しないと行けなくなっている？
- ・次の世代へ引継ぎを具体化
- ・限界集落の存続を考える場を作る
- ・新しい取り組みをチャレンジする
- ・区長のリーダーシップ力をどう培うか

③ふだんの活動からわかること

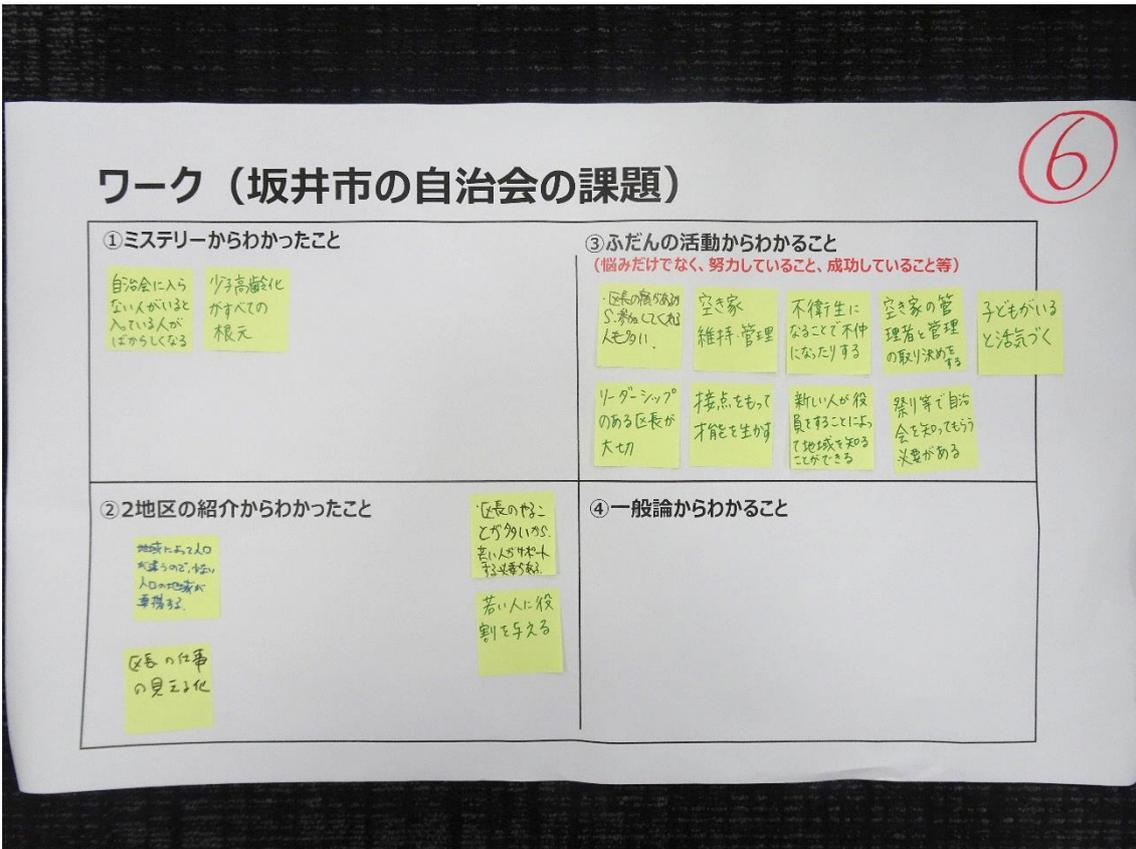
- ・区の役員(執行部)で問題を協議し、方向付けを行っている。相談相手が身近にいる。
- ・朝の体操を通じて、年配の方と交流している。自分たちの知らないことを教えてもらっている

- ・災害対策の取り組み、防災に対しての区民の意識向上
- ・女性参加のために、簡単な食事会を行う
- ・坂井市の自治会サポの活用

④一般論からわかること

【何が見えてきたか】

自治会長だけでしか地域の課題や問題を考えていない一方で、地域で意見を言えない女性がいったり、地域に参画できない若者や外国人がいる。潜在的担い手をうまく活用できていないのでは…？



① ミステリーからわかったこと

- ・自治会に入らないという人がひとりいると、区費を払って役員をしている人がばからしくなってくる
- ・少子高齢化がすべての根元である

② 2地区の紹介からわかったこと

- ・小さい集落が自分のところだけでなんとかしようとするとう人も足りず、集落の消滅を選んでしまうかもしれないので、同じような規模の集落と情報交換したり近隣の集落と連携したりすることが大切ではないかと思った
- ・区長がどんなことをしているのか全容が見えないので区長業務を担うことに対して不安を感じる。その不安を払拭するために区長の仕事の見える化が大切である
- ・区長のやることが多いので、若い人がサポートする必要がある。パソコンを使いこなせない区長もいるため、そのあたりをお願いできる人を見つける。パソコンだけでなく、若い人に役割を与えることによって自治会活動にかかわりを持ってくれるのではないかと思う(若い人も自ら自治会にかかわりを持っていくことは難しい)

③ ふだんの活動からわかること

- ・空き家の維持、管理が大変。草木が伸び、側溝がつまったりしてしまう。空き家周辺が不衛生

になることによって、近隣の方と不仲になってしまうこともある→空き家の管理者と管理について取り決めをしておく必要がある。

【最も盛り上がった課題】

- ・区長の顔があるから行事等に参加してくれる人も多い→リーダーシップのある区長が大切。日頃から自治会と住民が接点を持って、まだ発見されていない才能を持った人を見つけ出し、その能力を活かすことが必要
- ・引っ越してきてすぐ班長になり、最初は戸惑ったがその経験があったから自治会のことを知ることができた。今となってはよかったと思うので、新しい人が役員をすることは必要
- ・新しい人との接点はやはり地域の祭りである。そこで顔見知りになったり自治会を知ってもらったりして次に繋げる

【見えてきたもの】

- ・区の運営には仲間が必要であること